

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

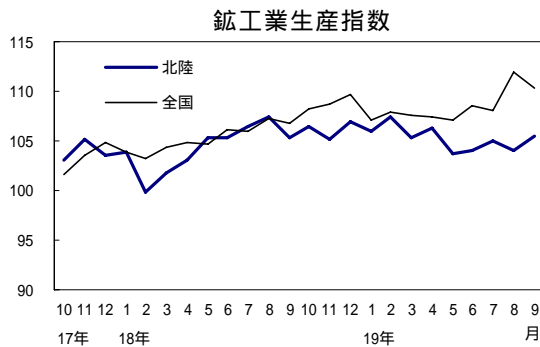
前回調査からの主要変更点

なし。

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、金属工作機械の自動車関連が海外向けに好調なものの、土木建設機械がライン増設のために一時生産を止めたことから、全体としてはおおむね横ばいとなっている。電子部品・デバイス、薄型テレビなどのデジタル家電や、携帯電話向けが国内外ともに好調だったことから、増加している。化学は、医薬品がOEM（相手先商標生産）の受注増や、後発医薬品の生産増などに伴い堅調に推移している。繊維は、非衣料品のカーシートやエアバックなど、自動車内装材が弱含みとなっているものの、衣料品が高機能素材の婦人服、スポーツウェア向けに好調だったことから、全体としては増加している。金属製品は、アルミサッシがマンション・住宅向けともに不調だったことから、全体としては減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成19年9月の北陸は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

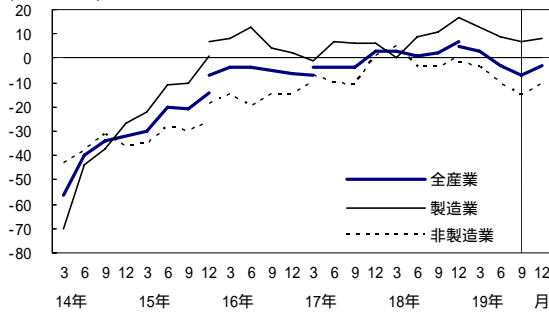
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	14.8	3.8	1.0	-	-
電子部品・デバイス	13.8	0.6	5.1	-	-
化学	12.7	0.2	0.0	-	-
繊維	12.4	1.0	2.1	-	-
金属製品	10.6	5.6	1.3	-	-
鉱工業	100.0	1.5	0.2	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 7~9月期は速報値。  
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

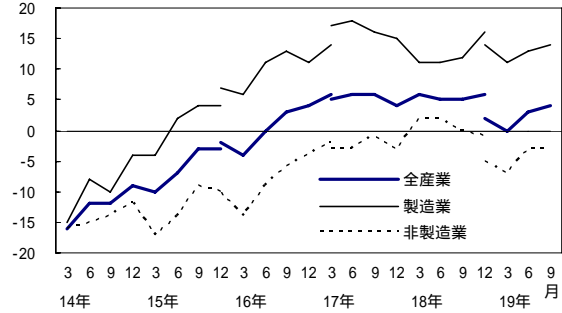
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



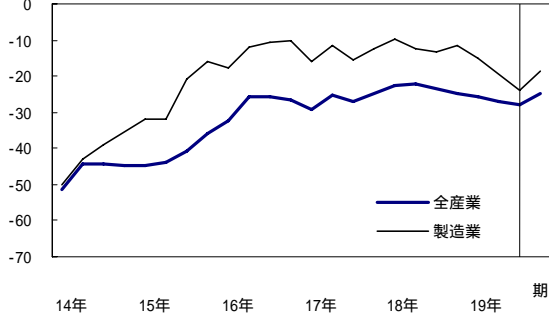
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年12月は予測。

15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「ガソリン価格の高騰、食料品の値上げなど生活関連物価が上昇しているが、賃金は低いまま推移し、消費の低迷が続いている。このため、各事業主の間で先行きの不透明感が広がっている(税理士)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多く見られた。

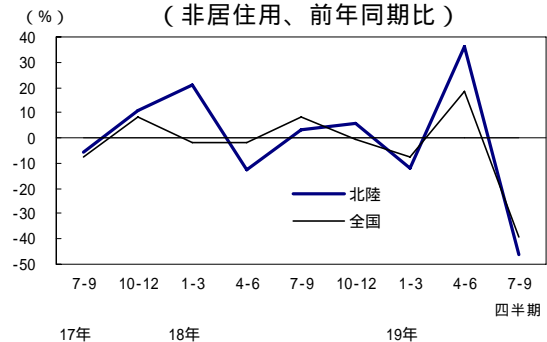
(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	17.0	14.8( 1.4)
製造業	18.3	20.3( 2.2)
非製造業	14.1	2.1( 0.7)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

建築着工床面積 (非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

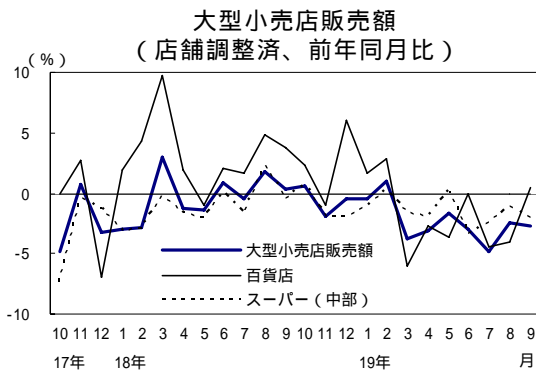
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、気温の低下により夏物衣料が振るわなかったことに加え、6月に前倒しでバーゲン商戦を実施したこともあり、前年を下回った。8月は、家具等が前年を上回る売行きをみせたが、猛暑の影響で、秋物衣料の出足が緩やかであったことから前年を下回った。9月は、残暑が厳しく、衣料品は苦戦したが、一部で閉店セールがあったことから、全体では7か月ぶりに前年を上回った。

スーパーは、衣料品に加え、主力の飲食料品も不調だったため、期間を通して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「原油価格が高過ぎる。元売りはきっちりと値上げしてくるが、ガソリンスタンドでは消費者の抵抗が厳しいため、価格転嫁は不十分のままである(その他専門店[ガソリンスタンド])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

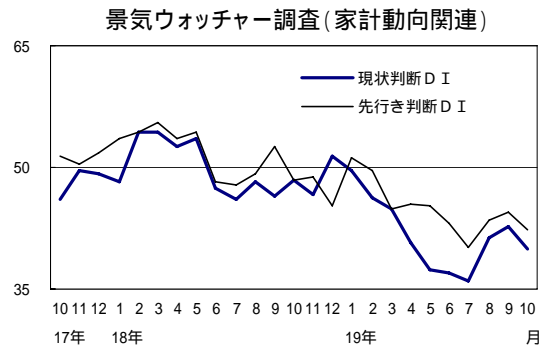
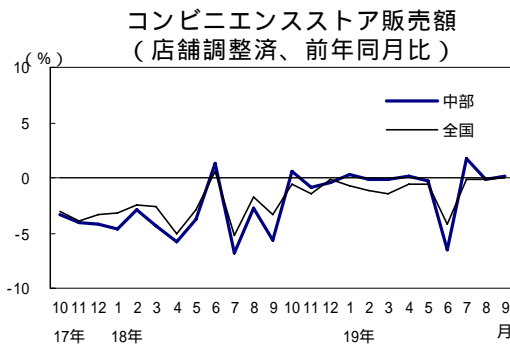
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.6	1.1	2.6	3.4
百貨店	2.7	0.8	2.1	2.9
スーパー	1.1	0.8	1.7	1.9
コンビニ	0.2	0.0	2.3	0.6
景気ウォッチャー	48.9	46.9	38.3	40.0

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部地区。

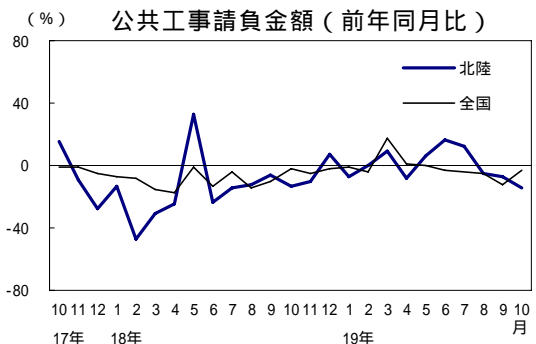
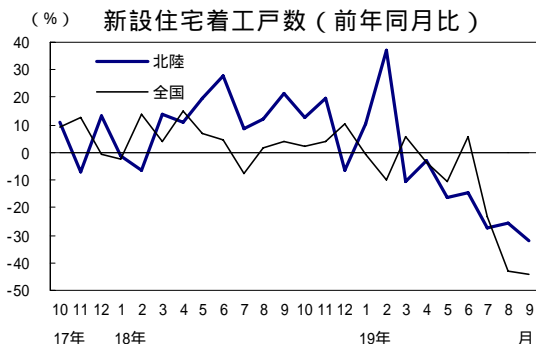
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

給与が前年を上回ったものの、持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準である。

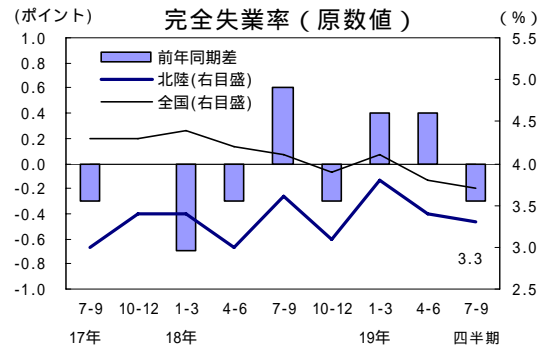
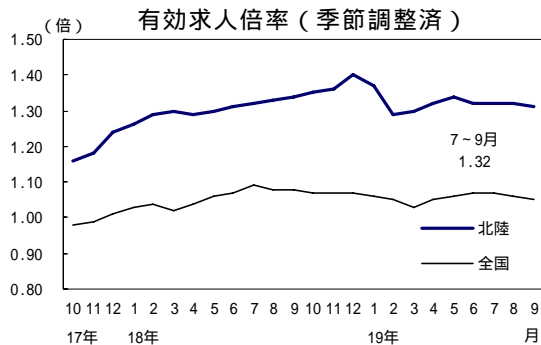


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

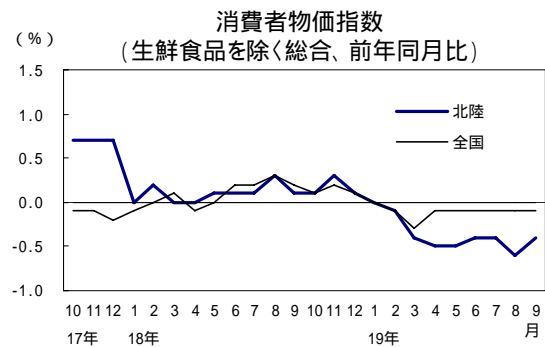
「正社員の募集・採用企業が多くなったためか、派遣登録者数が減少している（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	18年10-12月	19年1-3月	4-6月	7-9月	19年10月
倒産件数	74	77	103	71	37
（前年比）	3.9	4.1	1.9	2.7	12.1
負債総額	315	180	304	188	137
（前年比）	106.6	12.0	15.4	3.0	19.1



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・百貨店を核とする大型再開発ビルがオープンした結果、通行客は増加した。しかし、集客は特定店にとどまっており、周辺商店街への波及効果がまだ出ていない（商店街）。

<先行き>

・生活習慣病対策がいよいよ本格的に一般家庭にも広がることから、この需要が来店動機となり、売上の増加につながる（その他専門店 [医薬品]）。

景気ウォッチャー調査（合計）

